

Press Release

【報道関係各位】

2019年10月28日

公益財団法人ポーラ美術振興財団

幅 2.5m の大作を含む、新作 6 点を展示
ポーラ美術館 佐藤翠「Diaphanous petals」展 開催
やわらかな光の表現に挑んだ新境地の絵画作品を初公開
会期：2019/12/15(日)～2020/4/5(日)



左: 佐藤翠《Diaphanous pink window I》2019, Glitter, oil and acrylic on canvas 194.5×259.3cm
右: 佐藤翠《Diaphanous pink window II》2019, Glitter, oil and acrylic on canvas 194.2×259.3cm
photo by Kenji Takahashi © Midori Sato, Courtesy of Tomio Koyama Gallery / Koyama Art Projects

ポーラ美術館（神奈川県・箱根町）は、現代美術を展示するスペース「アトリウム ギャラリー」にて、佐藤翠「Diaphanous petals（ダイアファナス・ペタルス）」展を、2019年12月15日（日）から2020年4月5日（日）まで開催します。本展は、佐藤にとって美術館での初個展となります。

佐藤翠（1984-）は、服や靴などのファッションアイテムがひしめくクローゼットや、装飾的な文様で覆われたカーペット、そして色彩豊かな花々を、油彩やアクリルで描くアーティストです。ドレスやハイヒール、花や果物など、一貫して女性的なモチーフにこだわりながら、正面観を意識した構図やコントラストの強い色彩表現、身体性を感じさせる力強い筆のストロークによって、独自の絵画表現を追求してきました。個展やグループ展での作品発表のほか、小説の装丁画や挿絵を手掛けるなど、活躍の場を広げています。

本展では、6点の新作を発表します。縦1.94×横2.59mにおよぶ《Diaphanous pink window I》を含む大作3点と、これまでも連作として描いてきた花やカーペットをモチーフとした小品3点です。

光溢れるショーウィンドウを描いた大作3点では、ガラス壁から自然光が差し込む開放的なポーラ美術館の展示空間にインスパイアされた佐藤が、閉ざされた室内を暗示する色彩表現を用いた従来の「クローゼットシリーズ」から一転し、やわらかな光で満たされた空間の描出に挑んでいます。かすれた筆跡や滴り落ちる絵具の線、油彩とアクリルが混ざり合うことで生じたにじみは、光のきらめきや反射、ハレーションのような効果を生み、鑑賞者の眼を心地よく刺激します。人工的に作り出された服を描きながらも、透明な花びら（= Diaphanous petals）が重なり合うような儚さを感じさせ、また規

則的な服の連なりが多彩な色の線となり、限りなく抽象的で軽やかな表現へと近づいていくのも、彼女の作品の魅力です。

2017年から翌年にかけてのフランス留学を経て、古典的なモチーフにも興味を抱くようになったという佐藤。本展は、ヨーロッパ滞在による作風の変化や、その成果をご覧頂ける機会となります。作品に人物が描かれることはありませんが、計算された構図の中で自立するショーウィンドウの衣服は、ポートレートにも似た存在感を漂わせています。また、花を描いた作品にも、装飾性と同時に静物画のような古典的な要素を見出すことができ、ヨーロッパでの生活が与えた影響を物語っています。

具象と抽象、現実とイメージの世界とを行きつ戻りつしながら、絵画表現の魅力を追い求める佐藤の、新たな作風の展開にご注目ください。

■ 佐藤翠「Diaphanous petals」展 概要

現代美術の作家たちを紹介する HIRAKU Project*。第 10 回目となる今回は、ドレスやハイヒール、花、果実といった女性的なモチーフを、軽やかな色彩感覚や力強いストロークによって表現するアーティスト、佐藤翠をご紹介します。本展では、自然光の差し込む展示会場とも響き合うような、大型の最新作をご覧いただけます。

【会 期】2019年12月15日（日）～2020年4月5日（日）

【会 場】ポーラ美術館 アトリウム ギャラリー

【作品点数】新作 6 点

【主 催】公益財団法人ポーラ美術振興財団

【協 力】小山登美夫ギャラリー



佐藤翠 《Bouquet of roses I》2019, Oil and acrylic on canvas © Midori Sato

*HIRAKU Project : 1996年よりポーラ美術振興財団が助成してきた若手芸術家たちを紹介する取り組み。会場となるポーラ美術館内の「アトリウム ギャラリー」を2017年10月にオープンして以来、様々な現代美術作品を展示しています。

佐藤翠（さとう・みどり）プロフィール

1984年、愛知県生まれ。名古屋芸術大学美術学部絵画科洋画コース卒業（2008年）、東京造形大学大学院修了（2010年）。平成29年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスに滞在。服や靴が整然と並ぶクローゼットや、四季折々の花や果物を油彩やアクリルを用いて描き、具象と抽象の間を揺れ動く装飾的な絵画表現を試みる。主な個展に「Glimmer of night」SCÈNE（東京、2019年）、「Bouquets」8/ART GALLERY/Tomio Koyama Gallery（東京、2019年）、「Orange glow」Green Flowers Art（パリ、2018年）など。2013年のVOCA展にて大原美術館賞受賞。東京在住。



【作家ウェブサイト】<https://www.midorisato.com/>

■アトリウム・ギャラリー次回展のご案内

「ケリス・ウィン・エヴァンス」展（仮称）

会期： 2020年4月23日（木）～11月3日（火）

協力： タカ・イシイギャラリー

作家プロフィール：

1958年、ウェールズ生まれ。ロンドン在住。映像作家として活動を開始。90年代以降、言語や知覚をテーマとして、ネオン管、音、鏡、花火などを用いたインスタレーション、彫刻、写真など多様な作品を発表。文学、哲学、映画、音楽、天文学や物理学など、多岐にわたる分野からの引用を手がかりにした、コンセプチュアルな作風で知られる。

近年の主な個展に、ピレリ・ハンガー・ビコッカ（ミラノ、2019年）、テート・ブリテン（ロンドン、2017年）、サーペンタイン・サックラー・ギャラリー（ロンドン、2014年）など。主なグループ展に、ミュンスター彫刻プロジェクト（2017年）、ヴェネチア・ビエンナーレ（2017年）、あいちトリエンナーレ（2010年）、森美術館「万華鏡の視覚」展（2009年）、横浜トリエンナーレ（2008年）他。



Cerith Wyn Evans
Forms in Space ... by Light (in Time),
2017
White neon
Photo: Joe Humphreys / Courtesy
Tate Photography

■同時開催 シュルレアリスムと絵画 ーダリ、エルンストと日本の「シュール」展 概要

2019年はシュルレアリスム誕生から100年の節目にあたります。フランスで誕生したシュルレアリスムは、理性の及ばない無意識の世界を表現することを目指して始まり、日本の絵画にも独自の発展を促しました。本展では、この100年におけるシュルレアリスムの変遷と、フランスから日本、そしてアメリカ、アジアへの広がりを約100点の絵画、版画などによってたどります。

【会 期】 2019年12月15日（日）～2020年4月5日（日）

【開館時間】 9:00-17:00（入館は16:30まで）

【休 館 日】 無休（展示替えのための臨時休館あり）

【所 在 地】 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山1285

【TEL】 0460-84-2111

【公式サイト】 <http://www.polamuseum.or.jp/>



古賀春江《白い貝殻》1932年（昭和7）
ポーラ美術館蔵

■本件に関するお問い合わせ

ポーラ美術館 広報担当：中西、井本

TEL: 0460-84-2111 / FAX: 0460-84-3108

ポーラ美術館 広報事務局（プラップジャパン内） 担当：名取、屋木

TEL: 03-4570-8172 / FAX: 03-4580-9128 / MAIL: polamuseum.pr@prap.co.jp